

足立区東京大空襲犠牲者追悼式 議長追悼の言葉

本日、ここに平和を願う区民の皆様の念願でありました、足立区東京大空襲犠牲者追悼式を初めて挙げるにあたり、足立区議会を代表して謹んで追悼の言葉を捧げます。

幾多の悲しみをもたらした、先の大戦の終結から早78年の歳月が過ぎ去ろうとしております。戦禍の中、多くのかけがえのない命が失われましたことは、私たち足立区民にとって、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

度重なる空襲を受け、千住を中心とした地域が大きな被害を受け、多くの区民が犠牲となりました。亡くなられた方々のご無念と、最愛の肉親を失われたご遺族の心中を拝察いたしますと、誠に痛惜の念に堪えません。

昭和から平成そして令和へと時代が変わり、戦後生まれの世代が大半を占めるように至った今、この豊かで安穏な社会を当然のように考えてしまいがちです。しかし、今日私たちが享受している平和と繁栄は、戦災で命を落とされた方々の尊い犠牲とご遺族の皆様方のご労苦の上に築かれたものであります。いかに時代が移り変わろうとも、私たちはこのことを決して忘れてはなりません。そして謙虚に歴史と向き合い、人類の過ちの悲劇を二度と繰り返さないためにも、その記憶を風化させることなく、未来へと語り継いでいかなければなりません。

足立区議会といたしましても、昨年3月の本会議においてロシア軍のウクライナへの侵略に断固抗議し、即時撤退を求める決議を全会一致で可決いたしました。

今後も引き続き、あらゆる人々が希望に満ち平和で心豊かに暮らせる社会を実現するため、不断の努力を重ねていくことをお誓い申し上げます。

結びに、すべての御霊の安らかならんことを、そしてご列席の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして追悼の言葉とさせていただきます。

令和5年4月13日

足立区議会議長 工藤哲也